



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円
題字 井戸 知事

あなたです
火のあるくらしの
見はり役

「平成十七年度 第一回 女性消防団員研修会」実施

平成十七年度第一回女性消防団員研修会を平成十七年七月三十日(土)に神戸市北、神戸市須磨、尼崎市、芦屋市、川西市、小野市、朝来市及び丹波市、各消防団の女性消防団員五十名参加のもと、兵庫県立広域防災センターにおいて開催しました。

研修会は、午前十時に開始し、午前中に大教室において講義とその講義内容についてのグループ討議を実施し、昼食後、午後各種訓練を実施しました。

防団員の活動環境整備のあり方について」という内容で講義をしていただき、その内容について、グループ討議し、各班の結果を発表するもので、いずれも女性消防団の活動に直結する内容であるため、各団員真剣に話し合っていました。

この研修会は、女性消防団員の確保、役割、任務等について検討・討議・訓練等を通して研鑽を深め、女性消防団員の資質向上を図り、地域防災の核となる消防団の活性化推進を図ることを目的として、毎年、兵庫県消防協会主催により開催しております。

なお、今年度は、十一月頃にも開催を予定しておりますので、女性団員の皆様のご参加をお待ちしております。

また、主催者として日本消防協会の秋本理事長や倉澤常務理事、真山総務部長、植木業務部長が出席され懇談ができたことを喜んでいきます。

最後に、ここ数年地球規模で発生している多くの災害(地震・風水害・火災・その他)に従事し、「地域住民の生命・財産を不眠不休で守り、被害の拡大を防止し住民の安全を確保する」という重責を担っているが、その支えとなるのが日頃からの訓練と「自らの地域は自らで守る」という精神であると思えます。



講義 「消防団員の活動環境整備のあり方について」



グループ討議



AFT訓練

最初に、秋本理事長より消防団を取り巻く環境や、日本消防協会の活動などについてお話がありました。そのお話は、私の日頃の思いと違い、日本消防協会は、我々消防団のために、「いろいろと先手を打って活動して戴いているのだなあ」と考えを新たにさせられました。特に印象に残ったのは、理事長の話にあった「消防応援団」の旗揚げとして、「がんばれ消防」を立ち上げてもらったことです。これは、各界の有名人や著名人にボランティアとして参加を戴き「消防」のPRをして戴く事のようです。(詳しくは日消の福

また、主催者として日本消防協会の秋本理事長や倉澤常務理事、真山総務部長、植木業務部長が出席され懇談ができたことを喜んでいきます。

また、団員のなり手が少ないことから若者や市民に向けてのPR法として各分団(各市)で色々な事業を行っていることも知りました。例えば、自治体消防五五周年に合わせ市の行事として実施した。他には市民防災訓練の実施。消防感謝祭の実施。広報誌の発行。広



全国消防分団長集合!

全国「消防団を語る会」に参加して

三田市消防団・第四分団 分団長 馬場 俊彦

社・平成十七・七・一号を参照してください)

私たちは、それぞれの地域でそれなりに消防団活動のPRに市民を巻き込んでいこうと工夫を重ねていますが、今一歩という所ではないかと思っています。



昭和二十九年に二〇二万人を超える団員を有していたものが昨年は九二万人を割っていると統計が出ています。こうした矢先に「消防応援団」を結成し、消防団員・職員を合わせて一九九万人を目標に一九九万人宣言(後日テレビで放映されるそうです)

最後に、ここ数年地球規模で発生している多くの災害(地震・風水害・火災・その他)に従事し、「地域住民の生命・財産を不眠不休で守り、被害の拡大を防止し住民の安全を確保する」という重責を担っているが、その支えとなるのが日頃からの訓練と「自らの地域は自らで守る」という精神であると思えます。

そのためには、分団が一致団結・協力して「わが地域」のために災害に立ち向かう勇気を持ち、消防団活動をより一層充実強化していかなければならないと痛感しました。

以上

丹波市消防団長

藤本 修作



昨年十一月一日、旧氷上郡六町(柏原町、氷上町、青垣町、春日町、山南町、市島町)が合併し、丹波市が誕生、同時に、旧氷上郡六町消防団も組織を統合し、丹波市消防団が発足いたしました。

丹波市は、人口七三、〇〇〇人、総面積約四九三平方キロメートルを有し、この県下四番目の広大な地域の安全・安心を守るのが丹波市消防団であります。丹波市消防団が発足して、ようやく一年が経過しようとしています。組織の再編計画、自主防災組織の育成等、多くの課題を抱える中で、市民の期待に応えるべく消防団組織の確立を目指していききたいと思っております。

近年、多くの災害が発生し、消防団の責務もますます大きなものとなっていく中、常備消防や自主防災組織と連携を図りつつ、丹波市の防災行政の一翼を担って行きたいと思っております。



消防団今昔

44

国丸亀藩(五万三千石)の飛び地として、当地に一万石の領地があり、同藩はそれを納めるために網干の興浜(現、網干区興浜)に陣屋を設け年貢蔵が並んでいました。

貢蔵が大切なものであったかが伺えます。その後、時代は移り変わり、臨海部一帯は石油コンビナート等特別防災区域の「姫路臨海地区」に指定されるなど、大きな変貌を遂げています。他方、自然災害においても、東南海、南海地震の発生が危惧され、有事の際には当団の管轄区域の一部で津波被害が予想されています。

網干の町は姫路市の南西部に位置し、揖保川及び大津茂川の下流域にあつて瀬戸の海に面し、古くから商工業が栄えた歴史の香り高い地域です。

網干消防団の歴史は古く、明治時代の消防組が昭和二年三月警防団と改称され、同二年消防団令公布と同時に姫路市消防団に編入、その後幾多の変遷を経て現在の姫路市網干消防団となりました。

この他知行内の火事は、興浜村は残り、その他の村々は火事場に急ぎ消火活動をするべし。以上の事を心してはげめ。」と書かれており、いかに陣屋・年



姫路市網干消防団 副団長 小嶋 一

ここで、江戸時代の「網干消防組」について少し触れて見たいと思います。当時、網干は四

地区通信

消防団の新たな取り組みについて

芦屋市消防団

消防団の活性化を重点目標に掲げて、今年度から新たに「消防団幹部団員研修」を年間行事に組入れ、その第一回目が六月二六日の日曜日に開催されました。市分庁舎の大会議室において谷口団長からの挨拶の後、幹部団員としての心得について、また組織管理や現場管理、指揮能力などについて岸本副団長から資料に基づいて講義がなされ、参加幹部団員からも熱心な意見が取り交わされました。

続いて「消防団の活性化」に

話の要領で活動を行うものです。これは状況が刻々と変化する内容に即応できるイメージを養う訓練で、同時に分団が開発したパネル版に活動団員の動きや参加した団員の名前が明示され、現場での安全管理にも役立つものです。

消防団と消防本部共同での活動についての研修を行い、この一連の研修成果や法令関係、また消防本部で策定の各種災害に対する対応マニュアル等の消防団活動に必要とされる情報をバインダー形式にして全消防団員に配布する予定をしています。

次に、消防本部からの無線運用についての研修や「現場活動時の諸問題について」分会討論会も行われ活発な意見交換がなされました。また市防災対策課からも、本年四月から運用開始した「ひようご防災ネット」についての説明があり、災害時における情報伝達手段について話し合いが行われました。本市においては、第四階層と呼ばれる特定のグループを対象としたサイトも試行的に運用しており、登録した消防団員のみが閲覧できるサイトになっています。これにより災害時はもとより、消防団における各種の情報伝達手段として今後大いに活躍するものと考えています。

今年度は、十一月を目途に第三回目の研修会を予定しており、

阪神間に位置する国際文化住宅都市である芦屋市を愛し、また阪神・淡路大震災の教訓を生かすべく「災害に強いまちづくり」を目指して、今後とも消防団活動に取り組んでまいりたいと考えています。

今年度は、十一月を目途に第三回目の研修会を予定しており、

【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代！老後の準備は怠れません
消防関係者一人ひとりの老後を充実させます
※皆で入ろう、互助年金！！

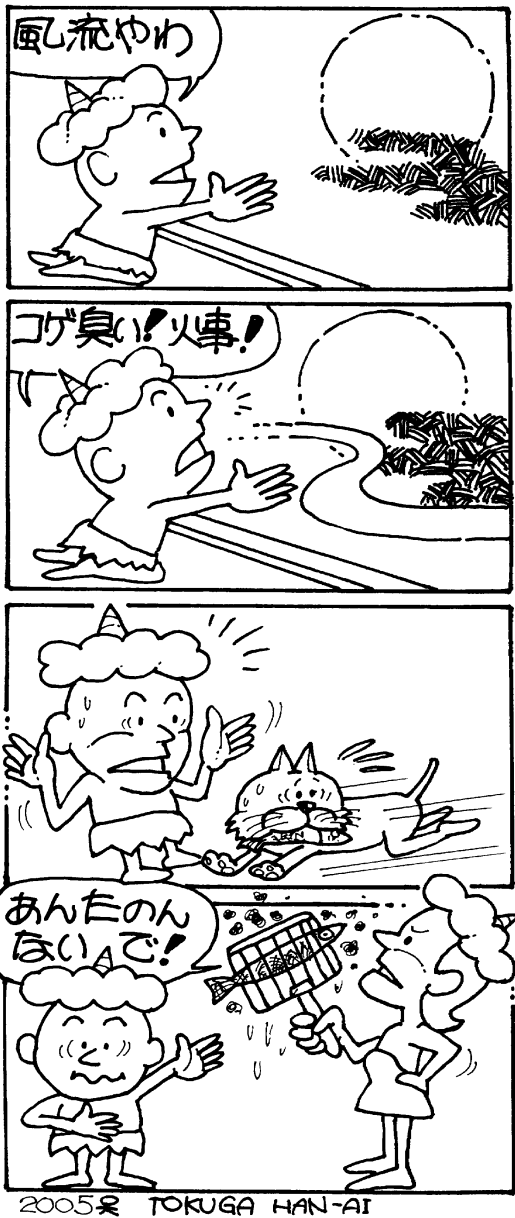


講習風景



実践 机上訓練

お供



港を守る

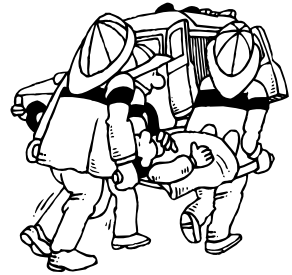
神戸市水上消防団
渡邊 真一 団長



神戸港を守るヤングリーダー
渡邊真一団長をご紹介します。
渡邊団長は平成十六年に若年三七歳の若さで団長に就任し、ただいま神戸港の防災に奮闘中です。

普段の団長は早駒運輸株式会社代表取締役社長として活躍、役職柄、港湾関係に精通されており、関係企業からの信頼は厚く、メリケンパーク協議会の会長も兼任されています。ただでさえ会議や出張で忙しい毎日を送っていたのですが、団長に就任してからは、さらに消防団関係の会議なども加わり、団長のスケジュール表は埋まりっぱなし!最近では消防団の行事を予定するのも四苦八苦の状況が続いています。

思っています。



「体験こそ財産」

赤穂市消防団
望月 昌次 団長



赤穂市は、兵庫県の西南端に位置し、南を瀬戸内海に面して、北に緑の山々、市の中央を清流千種川が流れ、年間を通じて晴天に日が多い気候温暖な町です。

ある林野火災出動の際、三方を火に囲まれ十メートル手前まで火災が迫った時、当時の分団長が絶妙のタイミングで放った「迎え火」で辛くも脱出、火の怖さを身をもって知るとともに「何事も経験、その場でしか学べないこともある。体を張って体験したことこそが財産になる」と若い団員に現場体験の大切さを説かれます。

昨年相次ぐ台風襲来の中、最も大きな被害を受けた台風二一号では、陣頭指揮を執り徹夜で水防活動に従事、翌日帰宅すると自宅も浸水の被害を受けられました。常に前向きに消防の崇高なる使命を遂行すべく、活動に取り組んでいます。

わがまちの団長さん

128

北から南から

美しい灘の護り

神戸市灘消防団

わが神戸市灘消防団が管轄する地域は、南の港湾部を除いて、神戸市灘区全域にわたります。豊かな自然を誇る六甲山と、その六甲山の南斜面を滑るよう降り、その裾野に広がった市街地が守備範囲ということになります。

実際に、満開の桜の花でできたトンネルなのです。摩耶ケーブル駅東側のバスが通行する車道を南北方向に約四百メートルにわたって桜の木が道路を包み込むように覆っています。その華やかさは他に類を見ないもので、通り抜ける人の度肝を抜くことうけあいです。

毎年この祭りには、灘消防団のメンバーも消防団員として、かつ地域の一員として、警備と巡行の両方に参加しております。地車は彫刻や提灯その他の装飾が大変に素晴らしいもので、地域の老若男女が力を合せて曳いて行く様子は、一見の価値があります。

もちろん、消防団というものは地域に密着したものであり、自然環境や歴史・風土と無関係ではありえず、これらの諸事情と相まみえながら、灘消防団も発展してまいりました。

灘区は、灘五郷のひとつである西郷の酒造など、多くの歴史と自然に恵まれた土地でありますが、灘消防団の歩みとともに紹介させていただきたいと思っております。

まだまだ、灘区については皆様に紹介したいことがあります。わが灘消防団は日頃の訓練によって災害活動はもとより、恵まれた自然環境や歴史・風土にとけ込みながら、地域と一体となつて日夜頑張っております。

はじめに、「桜のトンネル」と申しますと、みなさん何を想像されるでしょうか?

灘区のほぼ中央に位置する都賀川公園は灘消防署や灘警察署にもほど近く、灘区の防災の拠点と言ってもよい場所に位置しています。

水量豊富な都賀川の水を使って消防団の放水訓練も盛んに行われています。毎年、阪神・淡



桜のトンネル



都賀川の防災訓練

地 区 通 信

「自分たちの地域は 自分たちで守る」

龍野市消防団

龍野市は江戸時代の脇坂藩の城下町「龍野」地区を中心に揖保川・林田川をはさんで東西にまたがった地域で、山あり河ありの田園風景がひろがっています。この十月一日には北の新宮町、南の揖保川町・御津町と合併し新市「たつの市」として発足します。

合併間近の龍野市消防団は田中旭団長以下十五分団編成で、団員数四二〇名です。

最近の活動は火災・水防活動などの防災活動ばかりではなく、より積極的な「安全・安心まちづくり」の一翼を担う団体としての期待が強くなっています。その一例が昨年四月に龍野警察署管内の消防団で結成された「レッドパトロール隊」の活動です。これは毎月一回、ポンプ車による夜間パトロールを行うもので、



市民まつり パレード



避難所訓練



レッドパトロール隊の結成以後、郵便局による「街頭犯罪防止サポーター隊」、タクシー運転手による「タクシーパトロール隊」、新聞販売店による「新聞パトロール隊」、今年の八月には建設業界による「安全・安心街造り隊」が揖保川地区で結成されました。消防本部でも四月から夕方の防火広報活動に取り組み、現在では早朝、昼、夕方の三回の巡回が実施されています。また、四月からは龍野市では災害緊急情報発信システム「たつの防火ネット」が開設され、消防団員の携帯電話への災害時の緊急情報として水防指令や火災情報、気象情報が発信されています。これにより、市外にいても地元の火災や災害発生時の出動指令が受けられることとなりました。これは今まで以上に消防

団員への連絡手段として効果を発揮しはじめています。消防団がおこなう地元に着着した日常活動は昨年からは始まったレッドパトロール活動以外にも、今年六月から七月にかけて市内六力所でおこなわれた指定避難所避難訓練において、自治会でおこなわれた消火栓や可搬式ポンプによる消火訓練の指導、避難訓練会場での自治会役員との合同による土のう作りからの水防訓練をおこなうなど、例年になく活動が日常化しています。こうした活動を通じて期待される地域の消防団、信頼される消防団員がつけられていくものと思っています。また、全市あげた龍野市民まつりにあたってはポンプ車に飾り付けをおこなった少年消防クラブの子供たちや婦人消防隊の方々とともにパレードに参加しました。今年九月十一日に龍野市としては最後になる市民まつりに「安全・安心まちづくり隊」として防火予防パレードをおこないます。今後とも地域に密着した、自分たちの地域は自分たちで守る消防団として、頑張っていきたいと思います。

編集後記

九月とは言え、まだ残暑が厳しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、「平成十七年度第一回女性消防団員研修会」実施、全国「消防団を語る会」について三田市消防団第四分団長馬場俊彦さんよりの感想寄稿文を掲載しております。また、消防団今昔には、姫路市網干消防副団長小嶋一さん、丹波市消防団長藤本修作さんよりご寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

過ごしやすいくなるこの季節、スポーツ、読書、そして食べ物等。皆様自身の秋を、ぜひ堪能してください。

【事務局からのお知らせ】
「兵庫消防」十月号は、休刊とさせていただきます。

美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する モリタです。

株式会社 **モリタ**

本社 〒544-0003大阪生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6756)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



世界へ羽ばたく!

GMの消防自動車

大機ポンプ工業株式会社

●本社・営業本部
〒623-0021

京都府綾部市本町7丁目67-2
TEL (0773) 42-0681 (代)
FAX (0773) 42-9229

